【資料1】令和3年度第4回守山市行政経営改革委員会

令和4年3月1日（火）15時～：守山市役所3階31会議室（WEB会議併用）

（1）第2次守山市行政経営方針の最終案について　・・・ 2

（2）重点プロジェクトについて　・・・ 3

（参考）もりやま未来ミーティングの開催結果について・・・ 4、5

（1）第2次守山市行政経営方針の最終案について

【パブリックコメント】

（1）意見募集期間　　：　令和4年1月15日（土）から令和4年2月4日（金）まで

（2）意見の件数（意見提出者数）：　3件（2人）

※計画案に関する直接的な意見はなし（計画案に修正なし）

【資料２】概要版

【資料３】本編

No.	提出された意見の概要	市の考え方
1	守山市は転入者が増え、特に子育て世代においては教育・住宅・老後と様々な不安を抱えている。各世帯にライフプランに併せて安心した生活を過ごすための情報収集ができる環境を整えていただきたい。	様々なライフプランやニーズに応じた必要な行政情報の分かりやすい提供に加え、困ったときに誰もが気軽に相談できる体制の充実に取組んでまいります。 なお、令和5年度に市ホームページの更新に向け、より見やすく活用しやすいホームページの構築に取組むとともに、重層的支援として「家族まるごと相談体制」の中で、様々な家庭の相談を受け止め、課題解決に向けた支援に努めてまいります。
2	お金の大切さを学ぶ機会として、日本ではまだまだ普及できていないお金の勉強を学生や未就学児にゲーム感覚を交えながら学べる環境が増えてもいいのではないか。	現在、学校教育においても「生きる力」を育む学習内容として、お金に関する教育が取り入れられており、様々な機会を通じてお金の大切さを学ぶ機会を今後も検討してまいります。
3	大人の発達障害が増えている中、発達障害に困っている職員がいれば、調査・支援をしてあげて欲しい。	日々、多くの職員が業務に励んでいるなか、職員が最大限に能力を発揮することができ、全ての職員にとって働きやすく働きがいのある職場環境の実現に努めてまいります。

(2) 重点プロジェクトについて

【資料4】第2次守山市行政経営方針　重点プロジェクト(R4～R7)

(1) 重点プロジェクト項目

➢行政経営の理念の実現のため、今後、**「4か年で注力して推進する重要施策分野」**でプロジェクト化

・3つの重要施策分野
「市民・企業等の多様な主体との連携」
「職員人材育成」
「行政サービスの質の向上、自治体DX・業務効率化」

☞重点プロジェクトの具体的な取組内容は、毎年度ローリングで進捗管理・適宜修正

(2)職員意識調査(アンケート)による、職員意識の変化を成果指標化
・調査項目内容の検討【資料5】
⇒3月中に庁内グループウェアを使ってアンケート
⇒調査項目数は15項目以内で検討
⇒「はい、いいえ、どちらでもない・不明」や5段階評価等、回答方法の検討

（参考）もりやま未来ミーティングの開催結果について

【資料6】もりやま未来ミーティングの開催結果報告

第2次行政経営方針に関連する事業の具体化（市民協働の推進）に当たり、若年層の市民参画意識の向上を目的として、今回、市民懇談会の1つである「もりやま未来ミーティング」を市民協働課と共同開催

(1) 開催日時　令和4年2月20日（日）　13時30分から16時30分まで

(2) 開催場所　市民交流センター（サロンルーム、交流室、研修室、会議室）
※感染予防対策として、参加者を6班に分け部屋を分散（Zoom使用）

(3) 参加者　【一般参加者】 37名（男性：21名、女性：16名）
※参加者の年齢層は大学生から会社員、子育て世代など均等なバランス

【職員（これからの協働のまちづくり職員勉強会メンバー）】 9名
※職員が「参加者側」として、市民と同じ立場・同じ目線で、
班の中に入りまちづくりを考える。

「これからの協働のまちづくり職員勉強会」とは…
地域に飛び込んで、「楽しく」住民とコミュニケーションを図りながら、新しい市民協働のまちづくりを考えるために立ち上げた、職員有志による庁内プロジェクトチームのこと。（17名）

（参考）もりやま未来ミーティングの開催結果について

＜開催結果考察＞

・参加者が楽しむことができ、「また参加したい」という声もあり、今回の参加者を次につなぐ取組が必要。
・企画提案を話し合う時間が短く、十分に練られた企画提案を発表するには難しかったこともあり、成果物を求めないで、自由で気軽に対話ができる場の方がニーズがあるのではないかと感じた。
・参加者の中には、元々地域で交流したかった、何かボランティアに参加したかったという声もあり、既存の地域における市民活動情報、ボランティア情報が市民に行きわたる情報発信の手法を考える必要がある。
（市HPや広報紙の発信では今回のターゲットには伝わりにくい）
・「もりやま未来ミーティング」は、将来の地域の担い手となるポテンシャルを持った若年層の掘り起こしには効果が高いと考える。
・「参加者側」として参加した職員も、普段の業務とは違った立場で市民と関わることができて楽しかった、また参加したいと意見があり、新しい市民とのコミュニケーションの場として今後も継続していきたい。

今後の若年層の市民参画意識の向上のために…

- 「もりやま未来ミーティング」の定期的な開催
- 今回の参加者と「これからの協働のまちづくり職員勉強会」で継続した対話の場の検討

→今回の参加者や職員で、市民懇談会よりもさらに気楽に話すことができる場を作り、対話を深めていく。

→対話を深めていくなかで、まちづくりの企画提案が生み出された場合は、一緒に実現を図る。